

Monthly Art Guide

今月の展覧会ガイド

2025.9.25 - 10.24

全国の美術館・デパート・画廊で開催される展覧会の情報を、オールジャンルから厳選して紹介！見て、買って、楽しめるコレクターのための展覧会ガイド

アンチ・アクション 彼女たち、それぞれの応答と挑戦

0月4日(土)~11月30日(日)

チケプレ

戦後日本の前衛美術におけるアンフォルメルからアクション・ペインティングへの流れに注目し、ジェンダー研究の観点から美術史の読み直しを図った中嶋泉『アンチ・アクション—日本戦後絵画と女性画家』。同書を足がかりに、草間彌生、田中敦子、福島秀子をはじめ14名の女性作家による約120点の作品を紹介。一部作家は未発表作品も公開となるほか、同会場のみ草間彌生「椅子」も特別展示。

豊田市美術館 TEL.0565 (34) 6610 豊田市小坂本町8-5-1



福島秀子「ホワイトノイズ」1959年
阪本県立美術館蔵

山崎つる子「作品」1963年
兵庫県立美術館蔵（山村コレクション）
© Estate of Tsuruko Yamazaki courtesy of LADS Gallery, Osaka and Take Ninagawa, Tokyo

特別展 宋元仏画—蒼海を越えたほとけたち

7月20日(土)~11月16日(日)

チケプレ

古くから仏教の先進国である中国を慕ってきた日本に舶載し、受け継がれてきた仏教文物のうち宋・元時代の仏画に注目する過去最大規模の展覧会。東アジアでも群を抜いた宗教性と芸術性の高さは、日本美術へ多大な影響をもたらしてきた。同展ではその大半が日本に残る貴重な宋元仏画150点超（半数以上が国指定文化財）を展覧。長谷川等伯ら巨匠の作品もあわせてその魅力と文化的交流の軌跡を辿る。

京都国立博物館 TEL.075 (525) 2473 京都市東山区茶屋町527



国宝 牧谿「観音猿鶴図」中国・南宋時代・13世紀
京都・大徳寺蔵【後期：10/21~11/16展示】

チケットプレゼント応募方法

66~69頁「古田亮のバック・トゥ・ザ日本美術」、76~77頁「東美アートフェア2025」、99~108頁「展覧会ガイド」で紹介するものの中から、招待券を抽選で読者の方々にペアでプレゼントします。（招待券マーク） のついている展覧会がプレゼントの対象となります。

招待券ご希望の方は、官製ハガキに、必ず左上の応募券を貼付し、以下のアンケート(1)~(6)をご記入の上、弊社まで応募してください（会期・会場をご確認の上、会期に間に合うようにご応募ください。最終締切りは10月25日消印有効）。

- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| (1) ご希望の展覧会名 | (5) 現在、注目しているアーティスト（国内、海外問わず） |
| (2) 住所、氏名、年齢、電話番号 | (6) 最近ご覧になって面白かった展覧会 |
| (3) 今月号で面白いと思った記事 | |
| (4) 今後、記事として取り上げてほしい内容 | |

【応募先】 〒104-0061 東京都中央区銀座1-13-12 銀友ビル4階
(株) 生活の友社 月刊「アートコレクターズ」読者招待券プレゼント係

開館20周年特別展 円山応挙—革新者から巨匠へ

9月26日(金)~11月24日(月)

チケプレ

円山四条派を形成した、江戸時代を代表する画家・円山応挙。近年は伊藤若冲ら「奇想の画家」に注目が集まりがちだが、写生に基づく新しい画風で京都画壇を席巻した応挙は、当時の革新者だった。同展では、三井家が援助した香川・金刀比羅宮の模絵など重要文化財や国宝を通して、応挙が創り上げた革新的な絵画世界を紹介する。今話題の若冲との合作も東京初公開。

三井記念美術館 ハロー TEL.050 (5541) 8600 中央区日本橋室町2-1-1



国宝 円山応挙「雪松図屏風」(左隻)江戸時代・18世紀
三井記念美術館蔵
【展示期間：9/26~10/26、11/11~11/24】

重要文化財 円山応挙「遊虎図(16面の内)」
1787(天明7)年
香川・金刀比羅宮蔵

SIDE CORE Living road,Living space/ 生きている道、生きるための場所

10月18日(土)~2026年3月15日(日)

チケプレ

ストリートカルチャーを異なる場所や価値観を媒介するものとして再定義し、東京を拠点に日本各地で活動を展開してきたアートチームSIDE CORE。道や移動をテーマにした作品展示に加え、スケートボードやグラフィティ、音楽など多分野のゲストアーティストの出展によって、多様な価値観や生き方が交差する場を創出する。

金沢21世紀美術館 TEL.076 (220) 2800 金沢市広坂1-2-1



SIDE CORE
「new land」2024年
© SIDE CORE

スティーブン・ESP0・パワーズ
「Brooklyn」2019年
© Stephen ESPO Powers
photo:Matthew Kuborn



右上：ONE ART TAIPEI創設者たち。左からFrank Liu (Danasty Gallery)、Rick Wang (AKI Gallery)、Benson Chen (Der-Hong Art Gallery)。その他はONE ART TAIPEI 2025の様子。



今回のONE ART TAIPEIは26年1月。ライフスタイルとしてのアートを提示

台湾で毎年注目を集めているアートのイベント「ONE ART TAIPEI」の次回開催日程が、2026年1月16日から18日

と発表された。迫力のスケールで開催される同フェアは、台湾内外の魅力的なギャラリーやアーティストを一堂に集め、コレクターや一般の来場者が優れたアートを体験し、作品を購入できる貴重な場として重宝されている。

ONE ART TAIPEI (以下、OAT)は台湾内外の中小規模のギャラリーを主な対象として開催されている。アーティストたちの国際的な展示機会を促進し、より幅広いコレクター層へ彼らの作品が届けられるよう参加ギャラリーを支援している。評価の確立した巨匠作家から新進気鋭の若い才能までを網羅する同フェアでは、どのような来場者も気に入る作品を見つけることができる。

OATの委員会は国際アートフェア運営において豊富な経験をもっており、2015年にはTIDアワードを受賞。OAT主催の代表的なアートフェアの一つが同年に雑誌「LA VIE」が選ぶ「文化的

創造的イベントトップ10」に選出されている。今年の初めに開催された「ONE ART TAIPEI 2025」には1万人以上が来場し、結果的に総額数千万ドル規模のセールスを記録した。台湾におけるアート市場の活況を象徴する祭典として、アート台北などと並び、高い認知度を獲得している。

フェア期間中には、刺激的なアートイベントが様々に用意される。「ONE ART Award」は、審査員チームによる厳格な選考プロセスを通じて、若く有望なアーティストの発掘を目指す。「ベストインテリアダesign賞」は、ギャラリーが作品の可能性をより一層探求できるようにキュレーションのコンセプトを展示空間に導入することを奨励。さらに「ベストバイ3,000ドル」では、参加ギャラリーに3,000ドル以下の作品を3点まで展示するよう呼びかけ、コレクターになることを望む現代のアートファンたち

に、クオリティが高く潜在的な可能性を秘めた作品を手頃な価格で購入できる機会を与える。そして「ポップアップミュージアム」は、ギャラリーが公共の場で作品を展示することができるもの。

OATは著名な物語作家から若手作家までの作品を通じて、多様な芸術的視点を提供しようとするため、3つのセクターを設けた。「アンリミテッド」では洗練された作家による現代美術の逸品を、「ディスカバリー」では35歳以下の新進気鋭の才能を紹介、そして「メディアアート」では多様なメディアと造形作品を展示する。

ユニークな体験をアートフェアに期待するならば、ONE ART TAIPEI 2026は必見である。現在、出展ギャラリーを募集中。

ONE ART TAIPEI 2026

2026年1月16日(金)~1月18日(日)

※1月16日11時~19時がVVIPプレビュー、14時~19時がVIPプレビュー

Hotel Metropolitan Premier Taipei

No. 133, Sec.3, Nanjing E. Rd., Zhongshan Dist., Taipei City
https://www.onearttaipei.com